

<白金標準、10000 円へ向けた回帰相場・・・>



(出所：オアシス)

米国財務省は、長期 30 年債利回りが 19 年ぶりの高水準に位置していた事を踏まえ、長期の名目利付債を対象とした流動性支援目的の買いオペについて 9 月 9 日から 11 月 4 日まで継続し、現行の 20 億ドルから 40 億ドルへ倍増を発表している。翌日にはベッセント財務長官が CNBC のインタビューで 40 億ドルを超える可能性も言及している。そのため市場では、イーロドカーブコントロールに近い動きを示した事から、為替市場ではドル安の恩恵を受ける貴金属が買われる現象を見せている。特にイラン戦争では、米国とイランの停戦協議が決裂し、ホルムズ海峡は事実上の閉鎖状態を続けており、原油高：金利高の悪影響を受けるも、財務省の動きは貴金属の価格を占う上でポジティブサプライズの効果を得られている。特に金価格が最大の恩恵を受けるも、白金価格も同様に好影響を受け、発表から週末まで白金標準先物で 8712 円から 9653 円まで 941 円の上昇を行っている。そのため 8500 円～9000 円のレンジ相場が 9000 円～9500 円へ移行しており、3 月以降の下げ相場から 3 月の高値に向けた回帰相場へ移行しており、10000 円を試す値動きの期待感が強まって来ると見え、9200 円以下は強気の対応が妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が上昇し、**シグナル**は上昇している。RCI では**短期**が上昇し、**長期**が高値を維持している。ただ指数平滑移動平均線のレンジから日足が乖離しており、目先の調整安には注意が必要と思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,175,000 円(2026 年 8 月 24 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 100,320 円(2026 年 8 月 24 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>